

## Yamakado News Letter



進入路脇ササユリ防獣ネットを撤収 (12/5)



湿原のトタンを解体(11/30) ネットを降ろす(12/23)



展望所ブナ植栽地の防獣ネットを撤収 (12/5)



湿原は80cmを超える積雪 (12/28)

## 積雪に備え、防獣ネットを撤収

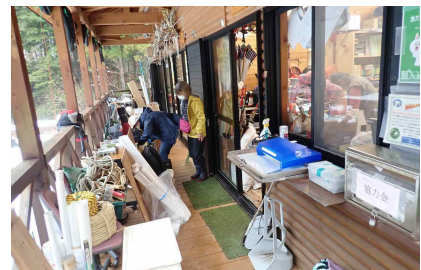
今月の保全活動は5日(日)と25日(土)に行いました。5日は8名、25日は16名の参加があり、またその間の平日も来られる人が作業を行いました。降雪に備え、防獣ネットの撤収が主な作業となりました。

山門水源の森の中で、防獣ネットを設置しているのは全部で30ヶ所、その総距離(全外周)は2,599mになります。そのうち山頂部のササ保護区が817m、湿原保護区(北部、中央、南部湿原)が679m、ササユリ保護区の総計が613mと、この3保護区で8割以上を占めます。

全部で10区画あるササユリ保護区は例年、蒴果が成熟して種子散布が終わる11月中頃から順次解体撤去を進めています。逆に山頂部のササ防獣ネットは、毎年ネットの上げ下ろしをする人手間がなく、設置したままの状態にしてあります。立ち木に固定した紐が雪の重みで切れるとネットが落ちる仕組みになっていますが、それでも一部でネットの破損があるので、翌春に補修しています。残る湿原内は週間天気予報を見ながら、まとまった雪が降って根雪になりそうなタイミングで撤去を行います。タイミングが早いと地表が露出した状態が続き、ミツガシワの地下茎などが被害を受ける可能性があります。逆に遅いと大雪になってしまって丁寧な撤去作業ができないので、タイミングは非常に重要です。そんな湿原のネット撤収を今年は23日に行いました。この日は晴天でスムーズに作業ができました。そして26日にはまとまった降雪があり、湿原は全面雪に覆われました。

25日は雨天でしたが楽舎の大掃除を行い、作業終了後は研修室で懇親会を行い、一年の労を互いにねぎらいました。

2021年も大きな事故もなく、保全作業を行うことができました。来年もご協力をよろしくお祈いします。皆様良いお年をお迎えください。



楽舎とその周辺の大掃除 (12/25)



クリスマス懇親会 (12/25)

## 今月の森の様子



一部でまだ落葉樹の葉が残る (12/1)



生き物の活動が減った湿地 (12/1)



雨の中佇むミヤマホオジロ (12/2)



どんぐり豊作 (12/5)



センブリとリンドウ (12/13)



開花するユキバタツバキ (12/15)



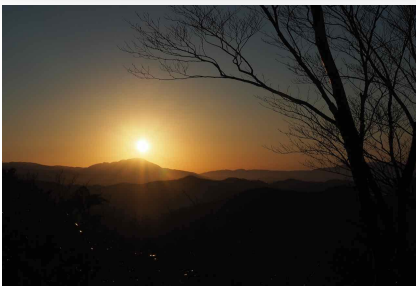
雪上に落ちるナツツバキ蒴果 (12/20)



雪を被ったミヤマウメモドキ (12/20)



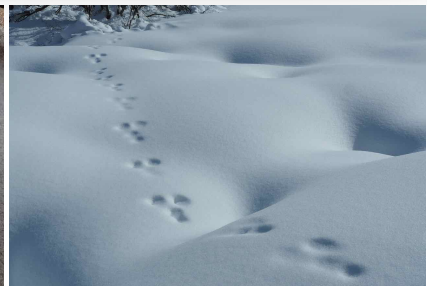
湿雪の重みで倒れたヒノキ (12/20)



伊吹山頂から登る朝日 (12/23)



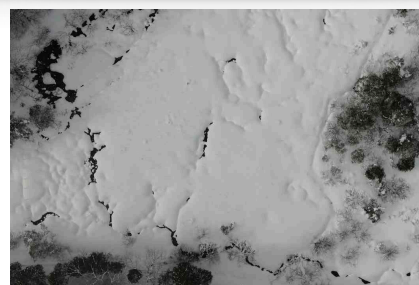
アカネズミ?の足跡(12/28)



湿原を横断するウサギ足跡 (12/28)



1.2mのポールが埋まる湿原 (12/28)



中央湿原ドローン空撮(12/28)



折れずに曲がるミヤマウメモドキ (12/28)

賑やかだった生き物の鳴き声が減っていき、山々を鮮やかに彩った紅葉のシーズンも終わってしまいました。12月は森の中が日に日に寂しい雰囲気になっていくように感じられる季節です。しかし本格的な冬が訪れて雪が降ると、雪上には沢山の動物の足跡が現れ、

普段通りに活発に活動していることが確認できます。湿原のミヤマウメモドキは「雪か、しょうがないなあ」と枝をしなやかに曲げて、雪が解ける春まで待つ様子です。その枝先は冬芽を膨らませ、翌春に向けて準備をしています。